

2013年度 事業報告書

2013年4月1日～2014年3月31日

社会福祉法人紅葉会

I. 法人本部

1. 理事会開催実績

開催年月日	出席理事数	出席監事数	審議決定した事項
2013.05.07	9	2	宗像市学童保育の指定管理
2013.05.27	9	3	2012年度事業報告/2012年度決算/規則の改訂/宗像市大島へき地保育所の指定管理の公募
2013.06.06	7	3	宗像市大島へき地保育所の指定管理の応募/施設整備/第一次補正予算
2013.08.01	7	3	宗像市大島へき地保育所の指定管理/ちどり保育園の苦情解決第三者委員の選任/新会計基準への移行
2013.10.31	9	3	宗像市学童保育の指定管理者選定結果/臨時職員就業規則の改訂/臨時職員の賃金改定と補正予算/玄海風の子保育園の施設整備と補正予算/法人学習会/給与の初任格付の是正/職員採用
2013.12.09	8	2	臨時職員の賃金の引き上げ/調理員の給与/秋闘要求/主任配置/処遇改善臨時特例事業の差額支給(ちどり保育園)/本部の運営体制/全国経営懇談会研究セミナーへの参加
2014.02.24	7	2	新会計基準への移行/補正予算/法人綱領の策定/2014年度体制/
2014.03.31	7	2	補正予算/2014年度の職員給与/2014年度事業計画/2014年度当初予算/定款変更/経理規程の改訂/評議員の選任

2. 評議員会開催実績

開催年月日	出席評議員数	出席監事数	審議事項
2013.05.27	16	3	保育をとりまく情勢/2012年度の事業報告と決算
2014.03.29	11	0	保育をとりまく情勢/2013年度の補正予算/2014年度の事業計画/2014年度当初予算/定款変更/評議員の選任/紅葉会の綱領策定

3. 監事監査実績

(1) 監査実施日他

区分	内容
監査実施日	2013年5月22日(水)
出席監事名	岡慎和・安部早知子・木下淑文
立会職員名	小寺安・井上邦子・奥村美香・原田秀一

(2) 監査報告書の内容

区 分	監 査 結 果
法人の財産状況	財務諸表は社会福祉法人紅葉会の2013年3月31日現在の財務状態を適正に表示している。 2012年度の事業活動について適正に表示している。

(3) 指導監査の結果

《ちどり保育園／福岡市》

指 導 内 容	実 施 内 容
【施設運営】 1. 誤った扶養手当の支給額を修正すること	■対応済み
【児童処遇】 1. 乳児担当の職員の検便（採用時を含む）は、赤痢、サルモレラ、腸管出血性大腸菌の3種について実施すること 2. 乳児担当の職員は、検便結果を確認したうえで業務に従事させること	■対応済み ■対応済み
【会計】 1. 2012年度に受領した保育協会補助金のうち、320,555円を変換すること	■対応済み

《玄海風の子保育園／宗像市》

指 導 内 容	実 施 内 容
【児童処遇】 1. 保育所保育指針に基づき、保育所の自己評価を行い、その結果の公表に務めること。 2. 尿検査は全児童を対象に年2回以上実施すること	■対応を検討中 ■保護者へ働きかける

II.2013年度事業の概括

1. 決算の概括

(1) 法人

- 1) 経常経費補助金収入は前年を6,921,415円上回ったものの、収入の柱である運営費収入が前年を16,363,080円下回ったため、法人全体の事業活動収入は、前年を10,308,557円下回る346,176,101円となった。
- 2) 事業活動支出は349,312,668円で、前年を12,825,942円上回った。事業費が前年を175,064円下回ったものの、人件費と事務費の増額が支出を押し上げるかたちとなった。
- 3) その結果、事業活動収支差額は-3,136,567円で、前年より23,134,499円の減額となった。
- 4) 事業外活動収支差額を加えた経常収支差額は-3,475,958円で、前年より23,155,702円の減額となった。
- 5) 当期活動収支差額は-3,475,959円で、前年より23,155,700円の減額となった。これに前期繰越活動収支差額を加えた当期末繰越活動収支差額は、7,475,959円減の135,868,779円となった。
- 6) 剰余処分（積立金取崩、積立）を行ったあとの次期繰越活動収支差額は140,797,449円となった。

円で、前年より1,452,711円の増額となった。

- 7) 自己資本の意味をもつ純資産は11,810,562円減の431,455,120円となった。資本の安定度を示す自己資本比率は、前年より2.1%上げて88.8%となった。
- 8) 支払資金の有高をしめす当期期末支払資金残高は、3,327,879円増額の76,775,546円となった。支払資金の余裕度を示す流動比率は863%であることから、経営の安全性は担保されているものと判断できる。

(2) 施設

- 1) ちどり保育園は、運営費収入が794,980円の増額となったが、2011年対比では約700万円不足する。近隣の園で分園や小規模の開設がすすんでおり、その影響が少なくない。事業活動収入は5,236,831円増額の191,727,062円となった。事業活動支出が前年より12,852,376円増額となったため、事業活動収支差額は前年より7,615,545円減額の一3,821,071円となった。その結果、本部会計への繰入等を差し引いた経常収支差額は一5,488,071円となった。
- 2) 風の子保育園は、運営費収入が前年より9,691,630円減額の103,131,510円となった。ちどり保育園と同様に、保育士確保ができなかったことが最大の要因である。事業活動支出が3,511,202円の減額となったが、事業活動収支差額は4,877,236円減の3,813,460円にとどまった。経常収支差額は5,041,836円減の2,499,060円となった。
- 3) よりどりちどり館は、事業活動収入が351,495円増の7,769,983円となったが、人件費、事務費、事業費、減価償却費ともに前年を上回ったため、事業活動収支差額は2,051,902円減額の一1,122,421円となった。よりどりちどり館はこれまで安定した収支構造が続いていたが、臨時職員給与の引き上げや建物取得による減価償却費の増額により、収支差額を確保しにくい構造にかわりつつある。児童の確保を前提に、補助金の確保等の方針化が急がれる。
- 4) 大島へき地保育所は、2歳児の減員により事業活動収入が7,466,430円減額の23,805,240円となった。事業活動支出は657,797円の増額で、事業活動収支差額は8,137,242円減額の441,621円にとどまった。2013年で第1期の指定管理契約は終了するが、4年間で次期繰越活動収支差額を12,324,375円確保することとなった。児童数の不安定さは大島へき地保育所の構造的な問題であり、安定運営のための方針化が宗像市に求められている。

2.課題

- 1) 「子ども・子育て支援関連三法案」が成立し、2015年4月施行にむけた準備がすすめられている。紅葉会は児童福祉法24条1項にもとづき保育所経営を貫くことを決定しているが、保育が必要なすべての子どもが格差なく保育が受けられるよう、条例策定に関する市町村と議会への働きかけが重要である。新法施行後も保育所には委託費が支弁されるが、他の施設類型の影響は避けられない。財政の安定化のためには、児童と保育士の安定的確保が基本課題となる。
- 2) 人件費は上昇し続けている。運営費収入の減額により、2013年度の人件費率は75%に達した。保育士確保のための処遇改善と適正な人件費率の確保というむずかしい対応となるが、両者を統一的にすすめるなければならない。子どもの処遇を確保しつつ、業務の効率化と経費の見直しが求められている。
- 3) 2013年度は保育士確保のために、国による処遇改善の措置がとられたが、保育単価への反映はなく単年度の加算にとどまった。紅葉会は非正規職員給与のベースアップを行い、法人独自でも処遇改善をすすめたが、臨時職員の確保につなげていない。臨時職員の処遇改善と保育の質に連動する職務の蓄積を保障する財源の確保のために、保育園経営者間

の連携が重要になっている。

- 4) 紅葉会が複数施設を運営するようになって10年が経過した。“本部機能の確立と強化”、“財政の健全化”、“保育観の一致”といった課題は、一定の成果を確認することができる。施設運営体制の移行も完了した。経営管理体制の蓄積は着実に前進しているといえる。一方、事務システムの統一によるコスト削減、教育体系にもとづく職員教育・専門性の蓄積本部運営体制の移行準備など、課題も少なくない。これらの課題を確実に達成させるためには、役職員の方針への結集と協働が不可欠となる。それを保障するために、方針の明確化と組織と運営の民主制を徹底する。

III.ちどり保育園

1. 入所児童の延べ人数

年齢別	当初計画	実入所数	増減
乳児	156	222	66
1・2歳児	876	865	-11
3歳児	456	445	-11
4歳児以上	876	852	-24
合計	2364	2384	20

※年度途中に0歳児は10名増えたが、他の年齢は引越し等での退園があった。

4月197名スタート、3月末も197名と全体数としては増えなかった。

2. 職員の配置実績

(1) 正規職員

職種	当初配値	増減	年度末
園長	1	0	1
主任保育士	1	0	1
保育士	17	0	17
調理員	2	0	2
事務	2	0	2
合計	23	0	23

※ 年度末2月～、1名が産休に入った。

(2) 臨時職員

① 常勤職員

職種	当初配置	増減	年度末
保育士	12	2	14
調理員	3	0	3
合計	15	2	17

※0歳児の受け入れに伴い年度途中に常勤を3名増員した。

② 非常勤職員

職種	当初配置	増減	年度末
保育士	4		4
調理員	1		1
その他	2		2
合計	7		7

※ 保育士は、勤務形態にかかわらず確保が厳しい状況で今後の課題である。

3. 2013 年度 保育の重点方針と実績

下記の重点方針のもと、学習と実践の統一をすすめ、日常の保育内容と行事内容を深めることが出来た。

(1) 日常運営

- 1) 子どもの成長、発達に責任をもつ立場から、専門性と運営力量の引き上げをはかった。
*25 項目ある「職員の勤務原則」が一人ひとりの各職員の役割と責任を認識して仕事を進めることにつながった。「当日の園の状況・保健日誌」を伝達・意思疎通として重視した。
- 2) それぞれの役割と責任を明確にし、一人ひとりが自分の仕事を進めていけるよう運営体制の確立をめざした。
*主任、チームリーダーを中心に各クラスの成果と課題を整理し、日常運営や保育の専門性を高めていく協力体制作りをすすめていった。
- 3) 働きやすい職場環境をめざす為、心理カウンセラーと連携し「心の相談室」を設置した。

(2) 保育内容

- 1) ちどり保育園保育要綱、保育目標、保育方針については、折に触れ確認し共通認識を深め高めあうようにした。
- 2) 職員間の信頼関係（認め合い支え合い）を基盤に、職員集団の質の向上と専門的力量をどう高めあうのか、職員間の連携については会議の議題にもせ皆で考えあう機会をもった。
- 3) 「発達保障」「一人ひとりを大切にする保育」を貫くため、未満児クラスでは担当制を導入して、養護と教育の一体化により子どもの自主性の形成に努めた。また、遊ぶことを通して子どもの可能性を引き出して発達を助けられる保育をめざし大切にしてきた。特に、「運動発達」をテーマとして学習していき、遊びと生活の中で運動発達を観察、分析し実践に繋げることができた。
- 4) 保育内容の8つの柱を中心に、理論と実践を統一的に深めあった。また、クラスごとに年間の研究テーマを決め継続した学習は実践にもつながり、一定の成果も得られ次への課題につながった。
- 5) 保育計画(教材準備)——年間計画・期計画・月案・週案(課業)——の目的を明確にするための検討・話し合いを深めた。またビデオ観察から保育を振り返る中では分析する力もついてきている。
- 6) 保育方針、および保育内容の総合的な充実をはかるために、研修・学習を強めた。チームでの自主学習会や自分に必要な専門分野の自己研修など活発になってきている。
- 7) 姉妹園である玄海風の子保育園・大島保育所との施設間交流をし、保育の学び合いをすすめた。(年長児合宿、リズム運動交流・保育内容検討会議・公開保育)
- 8) 公的保育制度の解体につながる新制度や平和の学習と運動が、保育要綱を深く理解することにつながった。

(3) 地域子育て支援事業

- 1) 地域で生きいきと育ちあう場をめざしての、学童保育「よりどりちどり館」は、希望者も多いが保育室も手狭になった為、よりよい保育環境づくりに向けて施設の移転をした。
- 2) 地域子育て支援としては毎月の「なかよしクラブ」「赤ちゃんクラブ」を実施。育児相談等もうけている。その他「卒園児・小・中・高校生との交流」、「在園児保護者との連携と家庭支援」等、地域の実態や子育ての要求を把握し今後の支援につなげていく必要がある。

4. 通常保育の年間行事実施実績

月	主な行事
4	入園式・歓迎遠足・園説明会・下クラス懇談会・上クラス児懇談会
5	第1回父親交流会・くじら組春合宿
6	下クラス公開保育・ぎょう虫検査・ほし組(延長保育)懇談会・園児検診①・歯科検診①
7	上クラス公開保育・平和夏まつり・
8	七夕と語り部
9	上クラス懇談会・下クラス懇談会・リズム運動参観日・敬老のつどい・尿検査 園外保育
10	第2回父親懇談会・運動会・ぎょう虫検査・観劇会
11	くじら組秋合宿・歯科検診・園外保育・交通安全教室・くじら組野鳥観察 ファイヤースクール
12	下クラス公開保育と懇談会・クリスマスコンサート・園児検診②・もちつき
1	どんどやき・第3回父親懇談会
2	節分・上クラス公開保育・子育てを伝える会・歯磨き指導・園外保育
3	お別れ会・お別れ遠足・卒園式・進級式

※施設間交流として年長児の春合宿(風の子保育園、大島へ)秋合宿(ちどり)、リズム交流等、年間を通して定着してきた。今年度から職員研修として公開保育を始めた。保育実践を互いに学び合う機会がもてた事は大きな成果だった。

5. 特別保育事業の実績

(1) 延長保育事業

延長保育	2時間		
登録利用者数 (月単位)	1時間延長	年間延 1286名	1月平均 31名
	2時間延長	年間延 149名	1月平均 8名

※2時間延長の利用者が減っている傾向にある。

一時保育事業

利用者数(日単位)	4時間超	年間延 1名
	4時間以内	年間延 2名

※一時保育の希望はあり、問い合わせも多いが職員確保の問題もあり日常保育の受け入れは厳しい状況である。実績としては、次年度入園時の慣らし保育として年度末の数日の受け入れのみである。

(3) 障がい児保育事業

入所者数	軽度	1名	年間延 14名	1月平均 1名
	中度	0名	年間延 0名	1月平均 0名
	中度より重い	0名	年間延 0名	1月平均 0名

※認定は受けてないが、すでに療育センターと連携している等、個別に配慮の必要な児童は多い。

(4) 保育所地域活動事業

下記の事業を実施した。

①世代間交流等事業

地域の高齢者との交流「ふれあいサロン」・「小中学生との交流」・「OB父母同窓会」を実施。

②育児講座・育児と仕事両立支援

公開保育や懇談会での学習会・講師を迎えての講演会を実施。

6. 施設および設備の整備実績

区分	整備の内容	経費
施設整備 6/5～26	塔屋漏水修繕工事	1,400,000円
8/9	浅井戸工事及びポンプ取付配管工事	407,400円
1/29	加圧ポンプ取替工事一式	532,140円
備品 1/6	デスクトップPC	147,630円
3/10	冷凍冷蔵庫搬入	525,000円

7. 職員の研修実績

区分	実施年月等	研修会名等	研修の内容	参加
施設内研修	6回	保育研究会（遊び・育児）	講師：中島侑子氏	66
	14回	保育実践検討会	テーマにそって実践検討	60
	3回	新人研修	就業規則・保育要綱他	17
施設外研修	35回	福岡市保育協会主催研修	保育内容	36
	4回	全国経営懇セミナー	経営研究・主任研修	6
	5回	他園保育参観と研修		5
	5/13	よりよい保育緊急集会・学習		2
	6/1・10/30	救命講習会		3
	6/21	防災研修		1
	7/31	施設間交流（公開保育）		3
	6/15・16	わらべ歌・保育セミナー	保育内容	11
	7/7	博多絵本講座（佐々木正美氏）		1
	8/10～12	全国合研横浜集会	保育内容と情勢	4
	9/9	県保育協議会保育士会研究会		2
	9/8・9	九州保育団体研究大会（宮崎）		24
	11/4～5	保育情勢大集会		2
	11/7	保育所障がい児研修		1
	11/8～9	経営懇主任セミナー		1
	11/30～12/1	全国保育所給食セミナー（京都）		1
	11/27	福岡県保育協議会研修		1
	12/5	社会福祉施設事務員研修		1
	12/12～13	保育所事故予防研修会（東京）		1
	1/15	障がい児保育研修会		2
12/5	福岡県職員総合研修大会		1	
	2/11	子育て保育のつどい		25

※園からの指定研修だけでなく、自己研修としても積極的に参加できている。

臨時職員の研修の機会をどう保障していくかが、今後の課題である。

また、園内の研修を積み上げ、資質向上と育成の為に、（新人、中堅、ベテランの階層別・分野別など）系統的な研修計画を作成する必要がある。

8. 苦情等解決機関の設置と実績

(1) 苦情等解決機関の設置

職務	職名	氏名	連絡先
苦情解決責任者	園長	井上邦子	092-621-6331 (ちどり保育園)
苦情受付担当者	主任	智原順子	092-621-6331 (ちどり保育園)
第三者委員	卒園児保護者	井上准子	090-8390-9955
	紅葉会 監事	木下淑文	090-1369-9535

(2) 2013年度の苦情等の実績

機関での審議対象なし

*子どもの事故、ケガの発生についてリスクマネジメントの観点からも状況の把握と対策を強化した。事故報告のデータ化やヒヤリハットの記録から職員間で問題を共有し共通の認識とする事ができた。

*サポートが必要な家庭（保護者のメンタルケア）については児童相談所、区役所等の行政機関、病院と連携をとっていった。

9. 2013年事業に係る特記事項

- 1)一人ひとりが自分の役割と責任を認識して仕事を進め、職員集団としても、どう認め支え合う関係をつくっていくのかを、引き続き追求していく
- 2)保育士の確保が厳しい状況だが、まずは、園児受け入れの為に、職員が安心して働ける環境の為に人材確保は必須だと感じる。引き続き、今後の課題でもある。
- 3)姉妹園としての施設間交流が少しずつ蓄積されてきた。年長児の合宿やリズム運動交流は、子ども同士の交流だけでなく職員としても、お互いに子どもの姿から保育を振り返るいい機会となった。三園での保育内容検討会議も活かしながら今後につなげていきたい。

IV. 玄海風の子保育園

1. 入所児童

年齢別	13年当初	実入所数	増減
乳児	180	165	-15
1・2歳児	516	437	-79
3歳児	288	288	0
4歳児以上	696	687	-3
合計	1680	1577	-103

※当初の計画に対して103名減となった。基本的には乳児を中心に入園の受け入れを行うことを前提にしていたが、保育士雇用が難しく園児の受け入れを行うことができない厳しい状況が続いた。2014年度は乳児を中心として20名ずつの受け入れをめざしていきたい。

2. 職員の配置

(1) 正規職員

職種	13年当初	年度末	増減
園長	1	1	0
主任保育士	1	1	0
保育士	9	8	1
調理員	2	1	1
事務長	0	0	0

合計	12	11	-1
----	----	----	----

(2) 臨時職員

① 常勤職員

職種	13年当初	年度末	増減
保育士(1年正規)	1	2	1
保育士	3	2	-1
調理師	0	0	0
事務	0	0	0
合計	4	4	0

※育休代替職員も含め1年正規雇用の職員が2名となる。年度途中での退職もあり、2歳児クラスの対応を代替職員で行うことになり厳しい状況が続いた。

② 非常勤職員

職種	13年当初	年度末	増減
保育士	10	12	2
調理員	3	4	1
その他	4	6	3
合計	17	22	5

※所加算事業での60歳以上の職員にきてもらうことで(2名)保育教材づくり、子育て支援のサポートなどを行うことができた。

3. 保育の重点方針と実績

下記の重点方針のもと昨年度に引き続き、運営の組織化と日常保育の観察を通して(事実をみる)分析を行い、保育士の育児とあそびにおける指導性について学びあっていった。

(1) 日常運営

- 1) 保育要綱、保育目標、保育方針について確かめあうことで法人職員としての意識づくりや園の保育の方向性が明確になってきた。
- 2) 保育方針をふまえて、一人ひとりが自分の役割と責任を認識して仕事を進めていくことを重視していった。また、お互いの意志疎通をはかり、伝達しあうことを基本に、ひとりひとりが連携を意識して保育していくことをこれからも大切にしていきたい。
- 3) 日常の運営の中では、主任とGリーダーの役割などをさらに明確にしていき、園の組織化をはかっていく。

(2) 保育内容

自然に恵まれた保育環境を生かし、子どもを真ん中にして育ちあうために、紅葉会の保育要綱・保育方針を再確認し、子どもの家庭環境や宗像の地域性を十分に考慮して日常の保育をつくることを大切にしてきた

- 1) 大人との信頼関係を通して生活の自立へひとりひとりの子どもの人格を尊重し、子どもの成長発達を助ける保育のあり方を引き続き研究してきた。日々の保育の中で、保育者は育児と遊びの中に教育的視点をもち、信頼感・安心感を土台にしてその子の発達に沿った生活の自立を助ける保育を深めていった。
- 2) 保育理論と実践を統一的に深めあう。
年間の保育研究テーマとして流れる日課と担当制を土台に「乳児の遊び・幼児の遊び」に重点をおき、遊びの重要性を確認しあった上で、保育観察・分析を通して大人がどう助けるかを深めていった。
- 3) 「発達保障」「一人ひとりを大切にする保育」を貫くため、専門機関と連携して、障害児

保育を行ってきたが、軽度の配慮を必要とする子どもたちが多くなってきている。巡回相談2回と就学前の5歳児クラスの配慮の必要な子どもたちは小学校からも見に来てもらう機会が増えてきたことで、より細かく伝えができています。

- 4) 保育方針、および保育内容の総合的な充実をはかるために、園内研修・会議のあり方も検討しながら内容の充実をめざしていった。(保育研究会と職員会議の連動)

(3) 地域・他団体との連携

- 1) 子ども子育て新制度に関する動きは日常的にも職員・保護者にも伝える機会を意識的にもつことで、情勢に対する理解は深まってきているがまだ運動の広がりまでには到っていない現状がある。保護者や地域にもできるだけ発信し、運動を広めていく。

4. 通常保育の年間行事実績

- 1) 日常の保育の積み上げとしての行事、子どもの成長の節目として位置づけてきた。また年間の保育研究テーマや成果を確かめあう場としても位置づけ、日々の保育を観察・分析して今後に生かしていく。

月	主な行事
4	入園を祝う会・園内交流・園説明会 新クラス懇談会
5	かぼちゃ組春合宿・園庭整備
6	0・1・2歳公開保育・懇談会・ぎょう虫検査・園児内科・歯科検診①
7	3・4・5歳公開保育・懇談会・地引網・4・5歳児川・海あそび
8	平和のつどい
9	敬老のつどい・合同学習会(保護者会・園)・園外保育
10	運動会
11	かぼちゃ組秋合宿・風の子まつり・園児内科検診・歯科検診②
12	0・1・2歳公開保育・懇談会・かぼちゃ組和白干潟・もちつき
1	どんどやき
2	節分・3・4・5歳クラス公開保育
3	お別れ会・春の遠足・卒園を祝う会

5. 特別保育事業実績

(1) 延長保育事業

就労支援事業の一環、また、夕方保育として少人数での子どもたちの生活を大切に「縦わりでの保育」として実施してきた。平均利用人数としては減ってきているが0・1・2歳児の低月齢での利用が増加した。

	区分	年間延人数	月平均人数
登録利用者数 (月単位)	1時間延長	100名	8.3名
	2時間延長	36名	3名

(2) 一時保育事業

- 1) 地域のさまざまな保育ニーズに応えていく目的で受け入れに努力をはかってきたが一時保育も「来週利用したい」との急遽の希望連絡なども多いことや、保育士不足の問題もあり受け入れが実績として少なかった。

- 2) 実際の利用は育児休業中の在園していた子どもたちの利用が多くなった。

	区分	年間延人数	月平均人数
利用者数 (日単位)	4時間超	27名	2.3名
	4時間以内	2名	0.2名

(3) 障がい児保育事業

- 1) 発達支援センターとのケース巡回（年2回）はこれまで通りだが、配慮のいる子どもたちと発達支援センターとのつながりを意識的につくるための年中検診が全園実施となった。
- 2) 年長児は就学前相談と就学予定の小学校（5～6校）から対象児を見学にきてもらい、園での様子と園での具体的な手立てを伝えていった。
 - ・軽度障害 2
 - ・その他 発達支援センターとの相談と連携 10

(4) 保育所地域活動事業

下記の事業を実施した

① 世代間交流等事業

ジージ・バーバ会は定例的な地域活動、在園児との交流（がめの葉餅づくり・ソーメン流し・かき氷・おはぎづくり・干し柿づくりなど）、畑の苗植え、園の教材づくりでの支援が定着している。在園児との交流も増やしたいとの声もあり、地域も含めよりよい世代間交流のあり方を検討していく

② 育児講座（ぼかぼかクラブ・赤ちゃんクラブ）

園庭解放や育児講座（食事や悩みを語り合うしゃべり場・ヨガ講座）などを通してお母さん同士のつながりも深まったが幼稚園の2歳からの預かり保育も始まり、利用人数としては少なかった。園からの積極的な発信を工夫していくことが必要である。

③ 異年齢児交流事業

宗像市は小中一貫教育の取りくみもあり、行政としても保幼小の連携の強化をしているが、就学前の教育としての保育園という考えが強い傾向にある。園としても乳幼児期の発達保障のための保育のあり方を連携の場でできるだけ伝え、主体的に取りくんでいく。

④ 地域の特性に応じた保育需要への対応

ここ数年で地域の0歳児の入園希望者が増えているが、在園児の兄弟児も多く、保育士の不足が深刻で受け入れができていないのが現状である。

6. 施設および設備の整備

開園から11年が経ち、修繕箇所が増えてきた。水道水から井戸水に切り替えるための給水管改修工事とろ過のための軟水器設置を行ったがその後、ポンプの老朽化による故障があり見積もり依頼を行っている。

区分	整備の内容	経費
施設整備	給食室調理台網戸枠工事	172,200 円
	強化ガラス工事	136,000 円
	屋上防水立ち上がり上端シール一部やりかえ工事	126,000 円
	井戸水軟水器設置工事	945,000 円
	給水管改修工事 (水道水→への切り替え)	210,000 円
事務設備	パソコン1台 (保育)	108,000 円

7. 職員の研修

区分	実施年月等	研修会名等	研修の内容	参加数
施設内研修	12回	保育研究会 (遊び・育児)	講師：中島侑子氏 ：吉田田鶴美氏 柏原トクヨ氏	300
	10回	保育実践検討会	テーマにそって実践検討	60
	3回	新人研修	就業規則・保育要綱他	4
施設外研修	36回	宗像市保育協会主催研修	保育内容	50
	3回	全国経営懇セミナー	経営研究・主任研修	2
	6月	全国保問研集会	保育内容・保育情勢	0
	6月	コダーイ保育セミナー	保育内容	7
	8月	全国合研神奈川集会	保育内容と情勢	3
	12回	コダーイ乳児部会 A/B		48
	12回	コダーイ幼児部会		6
	11月	保育の集い		10
		他園保育参観と研修		10

宗像保育協会研修・宗像市主催の研修では、夕方の時間で「保幼小の連携」「発達支援」にテーマをおいて研修が実施された。(毎年、年2回の全職員対象の研修が実施)

園内研修では、乳児のあそび・幼児のあそびに重点をおきながら遊びの重要性を再確認し、環境や私たち大人が遊びの中で果たす役割や指導の在り方についても外部講師による保育実践観察や分析を通して実践を深めることができた。

8. 苦情等の解決

苦情処理委員会は年3回実施し、園の運営状況や保育内容・安全面(大型遊具・大人の見届けのあり方)保護者との連携も含め報告を行ってきた。

保護者からの要望・意見については、保育士の対応等についてあったが、職員間で再確認し改善に努めた

①苦情等解決機関の設置

職務	職名	氏名	連絡先
苦情解決責任者	園長	奥村美香	0940-62-9088 (玄海風の子保育園)
苦情受付担当者	主任	古林ゆり	0940-62-9088 (玄海風の子保育園)
第三者委員	岬コミュニティ副	桑野通孝	0940-62-1716
	紅葉会 監事	安部早知子	090-8763-4418

②方針

機関での審議対象なし

9. 2013年事業に係る特記事項

- 1)新体制スタートの年で方針会議の中で紅葉会職員としての役割と責任を明確にし、職場の民主的な雰囲気を大切にしていく中で、主任やリーダーを中心にひとりひとりの意識づくりにつながってきた。

- 2) 玄海地域の子育てひろばとして、子どもの成長を真ん中にすえ、共に育ち合う保育園づくりをめざしてきた。園内では保護者会・ジージバーバ会にも保育で大切にしていることを伝えながら理解を深めるように意識してきた。風の里夢委員会・障害児親の会との連携や情報交換も行っていった。
- 3) 紅葉会施設であるちどり保育園年長との春・秋合宿やリズム交流、大島保育所との海あそび・合宿交流を通して、子どもたち同士での交流の中でお互いを見合う姿や憧れ、活動への意欲につながったと感じる。また、大人の指導性や子どもへの向かい方も学びあうことができた。
- 4) 2014年度も今年度の成果を生かし、子どもたちの引き続きの交流と保育・給食の施設間交流を実施していきたい。

V. 学童保育よりどりちどり館

1. 入所児童の延べ人数

3年生で1名の途中入所、1,3,4,5,6年生で7名の途中退所があった。

学年別	当初計画	実入所数	増減
1年	156	148	-8
2年	168	168	0
3年	72	72	0
4年	60	53	-7
5年	48	37	-11
6年	84	70	-14
合計	588	548	-40

2. 職員の配置実績

①職員

指導員（資格保持者）を1名、補助指導員1名を配置した。

職種	当初配置	増減	年度末
指導員	1	0	1
指導員（常勤臨時）	1	0	1
補助指導員（臨時）	1	0	1
合計	3	0	3

3. 2013年度 保育の重点方針と実績

下記の重点方針のもと、学習と実践の統一をすすめ、多彩で豊かな保育内容をつくりあげることができた。

①日常運営

- 1) 新施設での指導員3名体制の一人ひとりの動きを確認し、自分の役割と責任を認識して仕事をすすめた。
- 2) 指導員会議で専門書を元に学習をしたり、指導員複数が研修に参加したりすることで専門性と運営力量のひき上げをはかった。
- 3) 外部での研修に継続して実践を出して討議を行うことで実践を深めることができた。

②保育内容

- 1) 新施設での過ごし方のルールを高学年を中心に話し合いながら作り上げた。
- 2) 低学年（1～3年生）と高学年（4～6年生）に分けて、担当の指導員を配置して保育を行うことで、それぞれの学年の担当指導員との関係をつくり安心しながら、発達に合った保育内容を考えることができた。

3) これまで継続して遊んできた遊び文化（制作活動・伝承遊び・集団遊び）で異年齢集団で関わり合う中で、教え合ったり励まし合い育ちあう仲間集団を築いた。

4. 通常保育の年間行事実施実績

長期休みを中心に下記の行事を行った。

月	主 な 行 事	
4	1年生歓迎会・説明会	誕生会
5		
6	懇談会	
7	夏まつり（太鼓出演）	
8	川遊び(猪野川)・クッキング・プール・おやつ作り 外出（少年科学文化会館・防災センター・サンシャインプール）	
9		
10	懇談会	
11	風の子祭りバザー出店・個人懇談(1月まで)	
12	太宰府こま大会・入所説明会・クリスマス会・スケート ちどり保育園年長児との交流（お化け屋敷）	
1		
2	節分・高学年合宿・懇談会	
3	卒所式	

5. 施設および設備の整備実績

入所希望の児童が増え、施設も手狭になっていることから、近隣に新しく土地、建物を修得した。

6. 職員の研修実績

下記の研修に参加し、保育内容と情勢の学習を行った。

区分	実施年月等	研修会名等	研修の内容	参加数
施設外研修	9/7, 8	九州保育団体合同研究集会	保育内容と情勢	1
	10/20	全国学童保育指導員学校 九州会場	保育内容と情勢	2
	10/5, 6	全国学童保育研究集会	保育内容と情勢	2
	2/23	福岡県学童保育研究集会	保育内容と情勢	2
	年2回	学童交流会	保育内容研修	1

7. 2013年事業に係る特記事項

- 1) 新施設取得にともない定員を55人に増員した。
- 2) 思春期を前に親から離れて、生活に必要なことの全てを自分達で行い、自立して暮らすことをねらいとして、高学年（5・6年生）の合宿を行った。
- 3) 地域に根差した学童保育を目指し、地域の方を招待して秋祭りを行ったり、地域の清掃活動に参加したりした。また、地域の役員の方に相談しながら、施設前の道路への横断歩道設置の要望を出した。

VI. 公益事業／大島へき地保育所

2013年度は、指定管理者制度Ⅰ期の節目となった。これまで構築してきた保育方針への理解をさらに深め、保護者・地域とともに、「共育で共育ち」を軸とした関係づくりと保育内容の充実にあたり、子どもたちが育つ豊かな環境づくりをめざしてきた。

1. 入所児童

3年間の縦割保育の実践をより具体化した。1年間園児数の減少はなかったが、3月末に3家庭の島外への転居があった。産業の発展は大きな課題である。

年齢別	当初計画	実入所数	増減
2歳児	5	5	0
3歳児	12	12	0
4歳児	1	1	0
5歳児	7	7	0
合計	25	25	0

2. 職員の配置

2歳児9名の受け入れ。今まで、地域雇用促進で無資格の保育補佐を多く雇用してきたが、保育内容の充実をねらいに有資格者の雇用で体制の充実を図った。

職種	当初配置	増減	年度末
園長	1	0	1
主任保育士	1	0	1
正規職員	2	0	2
正規並1年雇用（臨時）	1	0	1
代替保育士（臨時）	3	0	3
臨時保育補佐（臨時）常勤	1	0	1
合計	9	0	9

3. 保育の重点方針

指定管理者制度導入より運営は4年目。Ⅰ期の節目の年となった。地域に根ざした保育の展開が大きな要となった。

(1) 日常運営

- 1) 子どもの成長、発達に責任をもつ立場から、専門性と運営力量の引き上げをはかった。
- 2) 一人ひとりが自分の役割と責任を認識して仕事を進めた。
- 3) 組織の一員として伝達しあい、意思疎通をはかって連携した。
- 4) それぞれの役割と責任を明確にし、運営体制を確立した。
- 5) 市との連携を密にはかり、保育内容および施設管理の安全性に留意した。

(2) 保育内容

- 1) 3年間の保育実践を土台に完全「縦割保育」への移行期間。子どもたちひとりひとりが安心して過ごせる環境づくりと活動内容、保護者が安心して預けられる「保育所づくり」「地域との結びつき」に重点をおき丁寧、保育内容を展開していった。
- 2) 縦割での生活クラスを土台に「人とのつながりの中で育つ生活力」や個々の特性や個性を尊重し、その中での集団の育ちあいを大切にしていた。
- 3) 地域や保育所の歴史や文化に学び、地域・小中学校との交流や地域への日常的な関わりの場、行事、園外保育の実施を「日常保育の柱」とした。

(3) 地域子育て支援事業

地域の実態や子育ての要求を把握し、「高齢者との交流」、「卒園児・小・中・高校生との交流」、「在園児保護者との連携と家庭支援」、「地域子育て支援」を実施していった。

4. 通常保育の年間行事

月	主な行事
4	始園 入園を祝う会 親子遠足 花まつり ぎょう虫検査① 内科検診①
5	春季大祭 保育参観・クラス懇談会
6	歯科検診① 小中学校文化祭
7	クリーンアップ 七夕夏祭り 海あそび 山笠 風の子海あそび交流 4・5歳お泊り保育
8	中津宮七夕祭 1学期保護者会懇談会 盆踊り 花火大会
9	職場体験 敬老の集い お月見会
10	みあれ祭 全島運動会 秋の遠足 個人面談 ぎょう虫検査② 内科検診②
11	ぽかぽかデー 風の子祭り年長親子レクリエーション 歯科検診②
12	小学校おもちゃランド 小中学校もちつき お楽しみ会 コミュニティー合同クリスマス会 2学期保護者会懇談会
1	七草 鏡開き・どんどやき 保育参観 年長就学懇談会
2	節分 3学期保護者会懇談会 入園進級説明会
3	お別れ遠足 卒園式 進級式 終園

5. 特別保育事業

(1) 延長保育事業

就労支援事業の一環として実施 2013年度実績なし

	区分	年間延人数	1月平均人数
登録利用者数	1時間延長	4名	0名

(2) 一時保育事業

地域のさまざまな保育ニーズに応じていく 2013年度実績なし

	区分	年間延人数	1月平均人数
利用者数 (日単位)	4時間超	0名	0名
	4時間以内	0名	0名

(3) 障がい児保育事業

- 1) 発達支援センターとのケース巡回連携を強化することができた。
- 2) 保護者の、障がいや特性への理解をはかる（共育て・共育ち）為、発達支援センターとの連携をはかり、「のぞみ園」「センター」への通所につなげることができた。
- 3) 小学校へ「特別支援学級」の設置へ
- 4) 宗像保育所連盟研修に参加（1名 「発達障がい児研修」に参加できた）
- 5) 小学校と支援センター、園との引き継ぎの連携を強化。

	区分	年間延人数	1月平均人数
入所者数	広汎性発達障がい(5歳児)	1名	1名
	自閉傾向	1名	1名

(4) 保育所地域活動事業

下記の事業を実施した。

- ① 世代間交流等事業（地域の高齢者玄寿会との交流、小中学校との提携）
- ② 年齢児交流事業（異年齢での生活、活動）
- ③ 域の特性に応じた保育需要への対応（地域への園外活動・文化歴史体験など）

* 育児講座・育児と仕事両立支援は2014年度の実施計画とする

6. 施設および設備の整備

老朽化に伴い、ホールのカギのはまりが緩んでいる箇所が多く、交換をして整備を行った。

区分	整備の内容	経費
施設整備	フェンスのカギ交換・フェンスの交換	未整備
	ホールのカギの交換	92,400円

7. 職員の研修計画

下記、研修に参加し、報告や実践につなげた。

区分	実施年月等	研修会名等	研修の内容	参加数
施設内研修	1回	保育研究会 (遊び・育児)	わらべうた リズム運動 音楽教育の会の歌	4名
	6回	保育実践検討会	テーマにそって実践検討	4名
	対象者なし	新人研修	就業規則・保育要綱他	0名
施設外研修	2回	保育協会主催研修	保育内容	4名
	2回	全国経営懇話会	経営研究・主任研修	1名
	6月	全国保研研修会	保育内容・保育情勢	1名
	9月	九州合同研究集会	保育内容・保育情勢	1名
	6回	宗像地方保育所連盟	保育内容・保育情勢	5名
	5回	福岡保育問題研究会	音楽部会	1名
施設間交流	3回		乳児・幼児公開保育・リズム	2名
	1回	全国合同研究集会	プレ合研	2名

8. 苦情等の解決

(1) 苦情等解決機関の設置

職務	職名	氏名	連絡先
苦情解決責任者	園長	小寺 安	0940-72-2534 (保育所内)
苦情受付担当者	主任(園長代行)	奥村 智美	0940-72-2534 (保育所内)
第三者委員	地域在住・有識者	村上 秀一	090-3738-2670
	地域在住・有識者	平川 かずよ	090-5725-9404

(2) 2013年度の苦情実績

機関での審議対象なし

(3) 苦情処理委員会の実施

7月、11月、2月と、年3回定期的に、委員会を開催し、園児の様子や保護者の要望、地域の要望などを吸い上げながら、保育内容の改善、充実と「地域で育ちあう豊かな子どもたち」の育ちを考えあう機関としても機能している。

課題は、産業の発展。子どもたちが安心して島で育つ環境づくりが大きな議題となっている。

9. 2013年事業に係る特記事項

(1) 地域の世代間交流事業は、以下の事業を行った

1) 交流事業 (小中学校・風の子保育園のお泊り保育、海遊び交流・風の子祭り親子レク)

2) 地域との交流（コミュニティーとのソーメン流し・器づくり・除草作業・クリスマス会オーナメントづくり）

3) 育児相談

4) 地域行事への参加（地域・小中学校との合同行事）

5) 高齢者の方との交流（玄寿会との交流）

6) 文化事業「ピアノコンサート」の開催

(2) 子育て支援事業は、以下の事業を行った

1) 現行の公的保育制度と「子ども子育て新システム」の学習と運動

2) 入園に満たない0歳児、1歳児の子育て相談